

相模女大家政 ○川上 梅 永井房子 川村キミ子

〔目的〕 同一寸法で製作された長着のゆきであっても、材質の物理的性質が異なるに著用時に長短の差を生じる。またゆきの変化に関与する肥瘦の要因<sup>1)</sup>とは別に、肩部の形態。例えば肩傾斜角度の大小等のゆきに及ぼす影響が推察される。今回は和服ゆきが、着用時には身体計測部位とかなりずれることを考慮し、和服ゆきが一般に身体のどの部位を通るかの観察に基づき、比較的撫肩、怒肩の被験者に物性の異なる絹5種の長着を着用させ検討を行った。

〔方法〕 ①被験者は年齢18～19才の女子学生10名。うち肩傾斜角度30～35°が5名、18～21.5°が5名。  
 ②まずビニール製長着を着用させ、従来の身体計測上のゆきと和服ゆき（肩山線・袖山線）のずれを観察する。  
 ③次に物性（剛軟度・摩擦カ・ドレープ性・ヤング率・重量）の異なる5種の絹を材質とする長着を製作し、側方下垂・45°上挙、前方下垂・45°上挙の動作を行い、手首点と袖口線のずれ寸法を計測する。但し、ゆきは上肢側方30°または60°上挙の姿勢における頸椎点～肩先点～手首点の体表面上の長さとする。

〔結果〕 ①着用時の和服ゆきは従来採寸されたゆきとは異なる身体部位に対応することばかり、和服設計の為の身体計測部位の基礎資料を得た。  
 ②物性の異なる絹5種について同一寸法で製作された長着のゆきの長短を定量的に把握した。